

広島県聴覚障害者センターだより



Hiroshima Chokaku Center

広島県聴覚障害者センター

〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29

電話：082-254-0085

FAX：082-254-0087

E-mail minami@hiro-chokaku.jp

URL hiro-chokaku.jp

No.9 2018(平成30)年3月1日発行 (毎月1日発行)



手話の翻訳について



「手話は難しい」「読み取りは難しい」「翻訳は難しい」という声をよく聞きます。「表現はまあまあだけど、読み取りが苦手」「なんとなくはわかるけれど、日本語が出てこない」とも。それは、例えば「知っている単語の数が足りない」からなのでしょうか。

2月3日、4日に手話通訳者特別研修会が呉市にて開かれました。講師は香川県聴覚障害者協会理事長の近藤龍治さん。研修の2日目に「講演場面通訳」として、ある鉄道ファン(ろう者)の手話読み取りを行いました。

「立つ／読む／行く／したい」「夢／ある／した／本(指さし)／未来／何／電車／作る／レイアウト(指文字)／作る／ルール／まわる／作る／夢／イメージ／ある」

「立ち読み?」「電車を作る?」「レイアウト?」1回目だけでは、読み取れない参加者が多かったようです。

ろう者の近藤講師による、ろう者の手話の読み取り、日本語への翻訳が始まりました。「本を読む」という表現に対して、「どんな本なのか?」と講師は参加者に問いかけます。電車関連ということで、「時刻表」という答えが参加者から出ました。「時刻表なのだろうか?また、レイアウトとは何をレイアウトするのだろうか?」と講師。

講師からヒントが出ます。鉄道が好きなのにもいろいろあります、撮り鉄、食べ鉄、…彼の場合は?

参加者から、「適切か分からないけれど、ジオラマというのかな」という声が上がりました。すると、レイアウトという指文字での表現も、「鉄道ジオラマを作り、レイアウトする」イメージが浮かんできます。そうすると、本は時刻表などではなく、ジオラマレイアウトのイメージ作りのための鉄道の写真だと分かってきます。

後は、適切な日本語の選択。「彼のように鉄道が好きなのは、鉄道ファンなのか鉄道マニアなのか、どう翻訳するか」という問いかけが講師からありました。また、そういった言葉が社会的にはどう受け止められているのかを知る必要があるとも。そこで、翻訳例として「鉄道ファン」という言葉が浮かび上がってきました。

ろう者の背景・環境を知ることにより翻訳へと近づきます。

ろう者の豊かな手話表現を適切で豊かな日本語、例えば「鉄道ファン」「ジオラマ」に翻訳する必要があります。

手話通訳として必要な技術に、「翻訳」「同時通訳/逐次通訳」「読解力」「表現力」「伝達力」「情報提供」がありますが、「情報提供」が大切になってきます。

例えば、ろう者の持っているユーモアを、適切な日本語に翻訳し聴者に伝えることは、ろう者の世界を聴者に紹介する役割も担っていることになることにはなるのではないのでしょうか。そうした情報提供の大切さに気付かされた研修会でした。(松岡)